母子健康手帳の改訂に関する研究
―利用に関する基礎調査―

石須哲也　三重県保健衛生部長
坂本　弘　三重大学医学部教授
杉浦静子　三重県立看護短期大学教授
杉　真理子　三重大学衛生学教室
渡辺瑞代　三重県保健衛生部保健指導課長
安保明子　三重県保健衛生部保健指導課
門脇由匡　三重県久居保健所長
野田ちづ子　三重県久居保健所

はじめに

昭和58年度は、現在母子健康手帳が母子保健の現場でどのように利用されているかを、母親側の利用状況については文献的考察を加え、母子保健指導者側については市町村保健婦ならびに助産婦に質問紙による実態調査を行った。

本年度は母親と小児科医を対象に利用実態、および母親、小児科医、産婦人科医に改訂に対する意見を求めた。

調査方法

(1) 小児科医師に対する調査

昭和59年12月に開催された三重県小児科医会研修会の席上で調査用紙を配布し、その場で直ちに記入、回収した。

研修会の参加者は56名であり、48名分の調査用紙が回収された。なお、改訂に関する意見聴取は自由記載で求めた。

(2) 母親もしくはその他の保護者に対する調査

昭和59年11月～12月にかけて三重県内某R4 型保健所管内の1才6ヶ月健診に来所した母親98名ならびに母親以外の保護者13名の合計111名を対象にした。利用状況について面接聞き取り調査、および、実際の記入状況を観察者がチェックした。

(3) 産婦人科医師に対する調査

産婦人科医会母子保健担当委員会に主旨を説明し、改訂に関する意見のみを聴取した。

実施成績

(1) 小児科医師の母子健康手帳の利用状況調査結果について

調査対象者の経験年数は30年以上が一番多く、15年以上の経験者が60%以上を占め、比較的経験豊かな医師集団である。

勤務場所は、開業 45.8%、病院勤務 52.1%とほぼ半々である。

表1　経験年数

経験年数	人	%
～ 4年	7	14.6
5 ～ 9年	7	14.6
10 ～ 14年	3	6.3
15 ～ 19年	9	18.8
20 ～ 24年	6	12.5
25 ～ 29年	4	8.3
30 ～	17	22.9
NA	1	2.0
計	48	100.0

表2　勤務場所

勤務場所	人	%
開業医	22	45.8
病院勤務	25	52.1
その他	0	0
NA	1	2.1
計	48	100.0

表3
「先生が乳幼児の診察をされる際、かならず母子健康手帳を持ってくるよう指導されていますか」について

A N	診察時 人	診察時 %
かならず指導している	13	27.1
かならずしも指導していない	34	70.8
N A	1	2.1
計	48	100.0

「母子健康手帳を持参するよう指示するか」「母子健康手帳を診察時にかならず見るか」の2つの質問については、健診時と診療時においては状況が非常に異るとの意見が多く、健診場面においてはほぼ全員が活用するとの意見により診療時の特に初診時と限定して記入を願った。

「かならずしも母子健康手帳を持ってくるよう指導していない」が70.8%と健診時に比較して母子健康手帳の持参に対する指導状況は非常に異っていた。診療時の母子健康手帳持参への指導状況は勤務場所別では、傾向上の差は見られず、年令別では経験年数15～24年の中堅層が診療時にも母子健康手帳の持参を指示する傾向が高かった。

初診時に手帳を「見ない」が70.8%であった。しかし、勤務場所別でみると開業医の方が見る傾向が強かった。

経験年数別では中堅層医師が比較的よく見る傾向がみら

表4
「先生が乳幼児の診察をされる際、かならず母子健康手帳を持ってくるよう指導されていますか」について

勤務場所 / A N	病院勤務		開業医	
	人	%	人	%
かならず指導している	7	29.2	6	29.3
かならずしも指導していない	17	70.8	16	72.7
N A				
計	24	100.0	22	100.0

れた。

母子健康手帳の実際の活用状況は各問の第1位ランクには3点、2位には2点、3位には1点を与え、得点の高い順から1位、2位、3位の順位をつけた。

表6
「先生は初診時には、かならず母子健康手帳を御覧になりますか」

A N	診察時	
	人	%
見る	13	27.1
見ない	34	70.8
N A	1	2.0
計	48	100.0

表7
「先生は初診時には、かならず母子健康手帳を御覧になりますか」

A N	病院勤務		開業医	
	人	%	人	%
見る	4	16.0	8	36.4
見ない	20	80.0	14	63.6
N A	1	4.0		
計	25	100.0	22	100.0

表5

経験年数 / A N	～4年		5～9年		10～14年		15～19年		20～24年		25～29年		30年	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
かならず指導している	0		2	28.6	0		5	55.6	4	57.1	1	25.0	2	18.2
かならずしも指導していない	7	100.0	5	71.4	3	100.0	4	44.4	3	42.9	3	75.0	9	81.8
N A														
計	7	100.0	7	100.0	3	100.0	9	100.0	7	100.0	4	100.0	11	100.0

特に熱心に見る項目は、0才児、1才児以降とも出産の状況が第1位にランクされ、第2位では0才児は早期新生児（生後1週間以内）の経過、1才児以降ではツベルクリン反応とBCG接種、第3位では両年令とも健康診査の項目であった。

ほとんど見ていない項目では、0才児、1才児以降とも第1位は出生届済証明、第2位は妊娠中と産後の歯の状態がランクされている。あまり見ない項目として母親学級受講記録、子の保護者をあげている。

あなたが特に熱を入れて記入する項目では、0才児、1才児以降とも第1位は健康診査、第2位はツベルクリン反応とBCG接種をあげており、それ以外には0才児では、早期新生児の経過をあげている。

表8
「先生は初診時には、かならず母子健康手帳を御覧になりますか」

経験年数 / AN	～4年		5～9年		10～14年		15～19年		20～24年		25～29年		30年～	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
見る	1	14.3	2	28.6	0		4	44.4	3	42.9	1	25.0	3	27.3
見ない	6	85.7	5	71.4	3	100.0	5	55.6	4	57.1	3	75.0	8	72.7
N A														
計	7	100.0	7	100.0	3	100.0	9	100.0	7	100.0	4	100.0	11	100.0

表9　（10歳児）「1～5質問別上位解答項目」

順位 / 質問項目	第1位	第2位	第3位
1先生が母子手帳を特に熱心に御覧になる項目	出産の状態	早期新生児期（生後1週間以内）の経過	健康診査
2先生がほとんど御覧にならない項目	出生届出済証明	妊娠中と産後の歯の状態	母親学級受講記録
3記入するときに、先生が特に熱を入れて記入される項目	健康診査	ツベルクリン反応とBCG接種	早期新生児期（生後1週間以内の経過）
4書かなければならないが、つい書きそびれる項目	予備欄	乳幼児身体発育曲線	1歳6カ月までの歯の状態
5先生が使いにくいと思われる項目	早期新生児期（生後1週間以内）の経過 健康診査	保護者の記録（満1カ月頃）他	1歳6カ月までの歯の状態

表10（1歳児以降）

1先生が母子手帳を特に熱心に御覧になる項目	出産の状態	ツベルクリン反応とBCG接種	健康診査
2先生がほとんど御覧にならない項目	出生届出済証明	妊娠中と産後の歯の状態	子の保護者
3記入するときに、先生が特に熱を入れて記入される項目	健康診査	ツベルクリン反応とBCG接種	
4書かなければならないが、つい書きそびれる項目	予備欄	1歳6カ月までの歯の状態	乳幼児身体発育曲線
5先生が使いにくいと思われる項目	早期新生児期（生後1週間以内）の経過 保護者の記録（満1カ月頃）他	健康診査　予備欄	妊娠中の経過

つい書きそびれる項目については、予備欄、乳幼児身体発育曲線、1才6ヶ月までの歯の状態が上位にランクされていた。

使いにくいと思う項目は、早期新生児の経過、保護者の記録、健康診査があげられていた。

(2)　母親もしくはその他の保護者の母子健康手帳の利用状況調査結果について

「全体としてよく見る」との解答の項目に1点、特に熱

心に利用したとの解答の項目に2点を付与し、人数を乗じてスコアを求めた。全体で保護者の記録、乳幼児身体発育曲線、健康診査の順であった。属性別に見ると、出生順位別では第1子については乳幼児身体発育曲線に関心が強く、第2子以降では保護者の記録、健康診査の方をまず熱心に利用している。年令別にみると年代にかかわらず保護者の記録が第1位である。しかし、20才代では妊娠中の経過の項目が特に熱心に利用されている。職業の有無別は両群で差はない。家族形態別で、核家族では乳幼児身体発育曲線に関心が強く、複合家族で保護者の記録に関心が強い。妊婦健診受診回数別では、受診回数10回未満で保護者の記録、10回以上群で乳幼児身体発育曲線を熱心に利用している。

表11　母子健康手帳の項目別の「全体としてよく見る」状況（スコア化）

属性 / 項目	全体	出生順位別		母親年代別		職業有無別		家族形態別		妊婦健診受診回数別	
		第1子	第2子以上	20歳代	30歳以上	あり	なし	核家族	複合家族	10回未満	10回以上
N	111	53	58	73	38	32	79	45	66	61	50
読みもの欄	10	8	2	6	4	3	7	4	6	5	5
妊娠中の経過	35	14	21	30③	15	9	26	13	22	16	19
出産の状態	15	8	7	9	6	3	12	5	10	8	7
出産後の母体の経過	8	5	3	4	4	3	5	2	6	5	3
新生児期の経過	3	2	1	1	2	1	2		3	3	
乳幼児身体発育曲線	71 ②	43①	28③	50②	21③	11③	60②	31①	40②	24③	47①
保護者の記録	83 ①	39②	44①	52①	31①	15①	68 ①	28②	55①	42①	41②
健康診査	53 ③	23③	30②	25	28②	15①	38 ③	26③	27③	28 ②	25③
妊娠中と産後の歯の状態											
1歳6カ月までの歯の状態	8	3	5	5	3		8	1	7	6	2
予防接種	17	4	13	8	9	7	10	2	15	13	4

表12　母子健康手帳の「読みもの欄」の項目別利用状況（スコア化）

属性 / 項目	全体	出生順位別		母親年代別		職業有無別		家族形態別		妊婦健診受診回数別	
		第1子	第2子以上	20歳代	30歳代	あり	なし	核家族	複合家族	10回未満	10回以上
N	111	53	58	73	38	32	79	45	66	61	50
よいお母さんになるために	72 ③	48②	24③	47②	25③	17③	55 ③	25③	47③	26③	46②
妊娠中の栄養のとり方	84 ①	52①	32 ①	53 ①	31①	18①	66 ①	31 ①	53①	36①	48①
6つの基礎食品	75 ②	48②	27②	47 ②	28②	18①	57 ②	26②	49②	30②	45③
新生児	64	41	23	43	21	13	51	24	40	23	41
予防接種	48	33	15	33	15	7	41	16	32	15	33
おもな母子医療の補助制度	25	30	15	34	11	5	40	18	27	11	34

6つの読みもの欄について、特に熱心に利用した項目に2点、1度でも目を通した項目に1点、全々目を通さなかった項目に－1点を付し、スコアを求めた。全体的にはよく読むところは栄養、基礎食品、よいお母さんの項目であった。あまり見られていない項目は母子医療、予防接種の欄であった。属性別では、属性間で差はなかった。

母親98名とその他の保護者13名の持参した母子健康手帳111冊の記入率は次のようであった。すなわち、全体として記入率のよい項目は、子の保護者、出生届出済証明、妊婦自身の記録（質問したいことの覚え書）、保護者の記録、妊婦の記事であった。これに反して記入率の悪い項目は、予備欄、1才6ヶ月までの歯の状態、保護者の記録（生後4週間まで）、母親自身の記録（産後気がついたこと、変ったことのメモ）、妊娠中と産後の体重変化の記録であった。出生順位別では、第1子群で乳幼児身体発育曲線の記入率が高く、第2子以上群では母親自身の記録、妊娠中と産後の体重変化の記録、保護者の記録（生後4週間まで）で特に低率であった。年代別では30才代以上では20才代に比較して妊婦の記事、妊婦の職業と環境の記載率が低かった。一方、保護者の記録（1才6ヶ月頃）が高い傾向にあった。職業の有無別では、職業無の群で保護者の記録（1才6ヶ月頃）のページの記載が高かった。家族構成別では、核家族の母親は妊婦自身の記録（質問したいことの覚え書）に全員が記入していたが、一方、複合家族の母親の方が核家族の母親に比し乳幼児身体発育曲線を高率につけていた。妊婦健診受診回数別では、両群とも差は見られなかった。

表13　母子健康手帳の項目別記入状況

属性 / 項目	全体		出生順位別		母親年代別		職業有無別		家族形態別		妊婦健診受診回数別	
			第1子	第2子以上	20歳代	30歳以上	あり	なし	核家族	複合家族	10回未満	10回以上
N	111		53	58	73	38	32	79	45	66	52	59
子の保護者	111人	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
出生届出済証明	110	99.1	100.0	98.3	100.0	97.4	100.0	98.7	97.8	100.0	98.1	100.0
妊娠の記事	95	85.6	90.6	81.0	90.4	76.3	87.5	88.6	82.2	87.9	80.8	89.8
妊娠の職業と環境	86	77.5	79.2	75.9	80.8	71.1	71.9	79.7	73.3	80.3	75.0	79.7
妊娠自身の記録（分娩予定日）質問したいことの覚え書 etc	105	94.6	92.5	96.6	95.9	92.1	87.5	97.5	100.0	90.9	94.2	94.9
妊婦自身の記録（出産前後の居住地 質問したいことの覚え書 etc）	47	42.3	45.3	39.7	39.7	31.6	40.6	40.5	46.7	39.4	48.1	37.3
母親自身の記録（月経再来etc）	37	33.3	43.4	22.4	38.4	23.7	21.9	38.0	40.0	28.8	34.6	32.2
妊娠中と産後の体重変化の記録	43	38.7	50.9	27.6	43.8	28.9	31.3	41.8	35.6	40.9	36.5	40.7
保護者の記録（生後4週間まで）	57	51.4	60.4	43.1	52.1	50.0	56.3	50.6	42.2	57.6	51.9	50.8
乳幼児身体発育曲線	85	76.6	81.1	70.7	78.1	73.7	68.8	79.7	66.7	83.3	80.8	72.9
保護者の記録（満1カ月頃）	102	91.9	94.3	89.7	90.4	94.7	90.6	92.4	93.3	90.9	90.4	93.2
（3～4カ月頃）	100	90.1	90.6	87.9	91.8	86.8	90.6	89.9	88.9	90.9	84.6	94.2
（6～7カ月頃）	96	86.5	86.8	86.2	87.7	84.2	87.5	86.1	84.4	87.9	80.8	91.5
（9～10カ月頃）	92	82.9	81.1	84.5	84.9	78.9	75.0	86.1	88.9	78.8	76.9	88.1
（満1歳頃）	87	78.4	73.6	82.8	78.1	78.9	78.1	78.5	71.1	83.3	75.0	86.4
（満1歳6カ月頃）	83	74.8	71.7	77.6	63.0	97.4	59.4	81.0	80.0	71.2	63.5	84.7
1歳6カ月までの歯の状態	32	28.8	37.7	20.7	31.5	23.7	21.9	31.6	31.1	27.3	26.9	30.5
予備欄	10	9.0	7.5	10.3	6.8	13.2	6.3	10.1	6.7	10.6	9.6	8.5

表14　母親ならびに医師の母子健康手帳改訂に対する意見

母子健康手帳の項目	母子健康手帳に新たに入れるべきと考える項目		
	母親	産婦人科医師	小児科医師
妊娠中の経過		胎児心音、HBs 記入欄の追加	
妊婦自身の記録（おぼえ書）			
出産の状態			HB 記入欄の追加（母児）、アプガールスコアー
乳幼児身体発育曲線			頭囲曲線
保護者の記録			主な保育者はだれか
健診結果の記入欄	発達の標準を示し、異常の限界がつかめるよう		精神運動発達チェック項目追加 離乳状況
予防接種	接種時期の解説がほしい		定期、不定期、接種時期の具体的説明追加
その他			
Lecture		妊娠前半期についての注意説明追加	

母子健康手帳に対して廃止してもよいという意見は0であり、今のままでよいとの意見は64.3％、改善の余地ありと指摘している母親は35.7％であった。

(3)　母子健康手帳の改訂への意見について

母親、産婦人科医、小児科医の改訂への意見をまとめ、各意見を委員会で検討した結果、表14の項目が改訂にあたって提案すべき重点項目であるとの意見の一致を見た。

○妊娠中の経過（胎児心音、HB）

○出産の状態（HB、アプガースコアー）

○早期新生児の経過〔血液型（ABO、Rb）検討事項〕

○乳幼児身体発育曲線（頭囲曲線）

○保護者の記録（主な保育者）

○健診結果の記録欄（発達の標準、精神発達チェック項目の追加）

○予防接種（接種時期の解説）

○その他（妊娠前半期についての注意説明）

〔結　論〕

1. 妊産婦ならびに乳幼児が母子保健医療の場で指導を受ける場合、母子健康手帳がどのように利用されているかを母親の母子健康手帳の持参状況、小児科医師の母子健康手帳持参への指示という両側面から検討すると、健診場面では母親の持参状況は乳幼児の時は100％、妊産婦の時期には93.9％と高く、小児科医ほぼ全員と高い。

2. 母子健康手帳を母子保健医療の場で小児科医が見るか否かについては、医療の場では27.1％の医師が見ると答えている。

3. 小児科医師が特に熱心に母子健康手帳を見る項目は、出産の状況および健康診査であり、それ以外に0才児の診察の際は早期新生児期の経過であり、1才児以降はツベルクリン反応とＢＣＧ接種であった。昨年実施の保健婦、助産婦と第1位は同じ項目となっているが、第2位以降は保健婦、助産婦では妊娠中の経過や身体発育であったので、小児科医師の観点とは異る傾向であることが明らかとなった。

4. ほとんど見ていない項目では、小児科医師は妊娠中と産後の歯の状態、母親学級受講記録などをあげているが、保健婦、助産婦も妊娠中と産後の歯の状態を第1位にあげており、妊婦の歯の健康状態への関心は三職種共に低かった。

5. 熱心に記入する項目では、小児科医は健康診査、ツベルクリン反応とＢＣＧ接種をあげており、保健婦、助産婦の調査結果では健康診査以外に乳幼児身体発育曲線をあげていた。

6. つい書きそびれる項目では、小児科医師は乳幼児身体発育曲線をあげているが、保健婦、助産婦が前述したように熱心に書いている項目としてあげているので結果的にはこの項目が欠落することはないと考えられる。

7. 使いにくい項目として、小児科医師は早期新生児の経過、保護者の記録、健康診査をあげており、健康診査については保健婦も熱心に記入する項目とあげながらも使いにくいとしており、一考の余地が考えられる。

8. 母親が特に熱心に利用した項目は、保護者の記録、乳幼児身体発育曲線、健康診査である。保護者の記録は第2子以上の児、複合家族の児を持つ母親が特に熱心に利用し、乳幼児身体発育曲線は特に第1子の児、核家族の児を持つ母親が熱心に利用している。

9. 6つの読みもの欄について、特に熱心に利用した項目では、母親全体として栄養、基礎食品、よいお母さんに強い関心を示した。

10. 記入率の良い項目は、子の保護者、出生届、出生証明、妊婦自身の記録（質問したいことの覚え書）、保護者の記録、妊婦の記事であった。

記入率の悪い項目は、予備欄、保護者の記録（生後4週間まで）、母親自身の記録（産後気がついたこと、変ったことのメモ）、妊娠中と産後の体重変化の記録であった。

11. 小児科医、産婦人科医、母親の3つのグループの母子健康手帳の改訂に対する意見は、それぞれ異った立場からの意見が得られた。

本委員会としては、表14のような項目の追加が妥当と判断した。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

昭和 58 年度は、現在母子健康手帳が母子保健の現場でどのように利用されているかを、母親側の利用状況については文献的考察を加え、母子保健指導者側については市町村保健婦ならびに助産婦に質問紙による実態調査を行った。

本年度は母親と小児科医を対象に利用実態、および母親、小児科医、産婦人科医に改訂に対する意見を求めた。